

国立市

子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査報告
速報

I 調査の概要

1 調査票の種類と調査対象者等

図表 調査の実施方法

①調査票「子ども・子育て支援ニーズ調査（小学校就学前児童向け）」	
調査対象者	就学前児童を持つ保護者
調査件数	1,800件
調査内容	家族状況、就労状況、日常的な幼稚園・保育施設等の利用、育児休業の取得状況等
②調査票「子ども・子育て支援ニーズ調査（小学生向け）」	
調査対象者	小学校低学年（1年生～3年生）児童を持つ保護者
調査件数	916件
調査内容	家族状況、就労状況、放課後等の過ごし方、等
③調査票「小学生の生活に関する調査（小学5年生）」	
調査対象者	小学5年生
調査件数	646件
調査内容	放課後の過ごし方、情報の入手先、学校生活、等
④調査票「中学生の生活に関する調査（中学2年生）」	
調査対象者	中学2年生
調査件数	693件
調査内容	放課後の過ごし方、情報の入手先、学校生活、等

2 調査の実施方法と配布・回収状況

（1）調査時期と調査方法

調査時期：平成25年10月～12月

はがきによる督促を1回

調査方法：郵送方式により調査票を配布・回収

(2) 調査の配布・回収状況

調査によるそれぞれの配布・回答状況は、以下のとおりです。

図表 調査票の配布・回収状況

調査対象者区分 地区	就学前児童の保護者			小学校児童の保護者		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
市全域	1,800件	772件	42.9%	916件	451件	49.2%

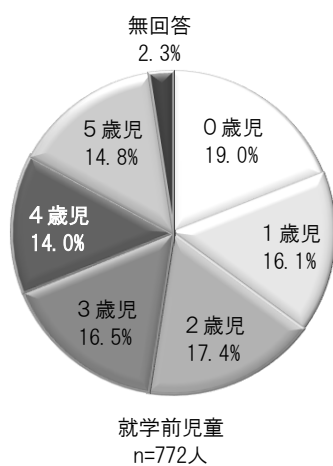
調査対象者区分	小学5年生			中学2年生		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
市全域	646件	288件	44.6%	693件	266件	38.2%

3 調査対象者の属性・家族状況

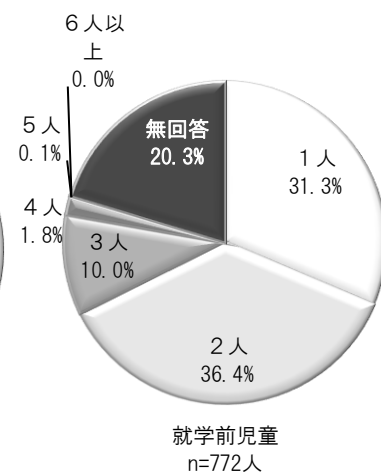
(1) 就学前児童の属性

回答された772件の就学前児童の属性は、以下のとおり。

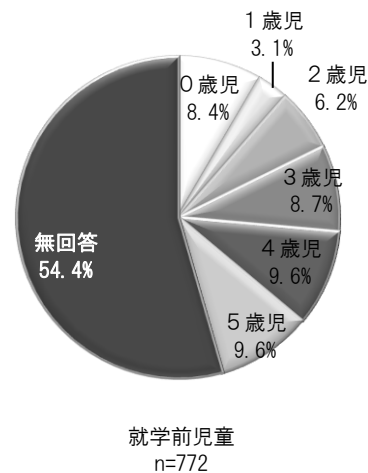
問2 年齢



問3 子どもの人数

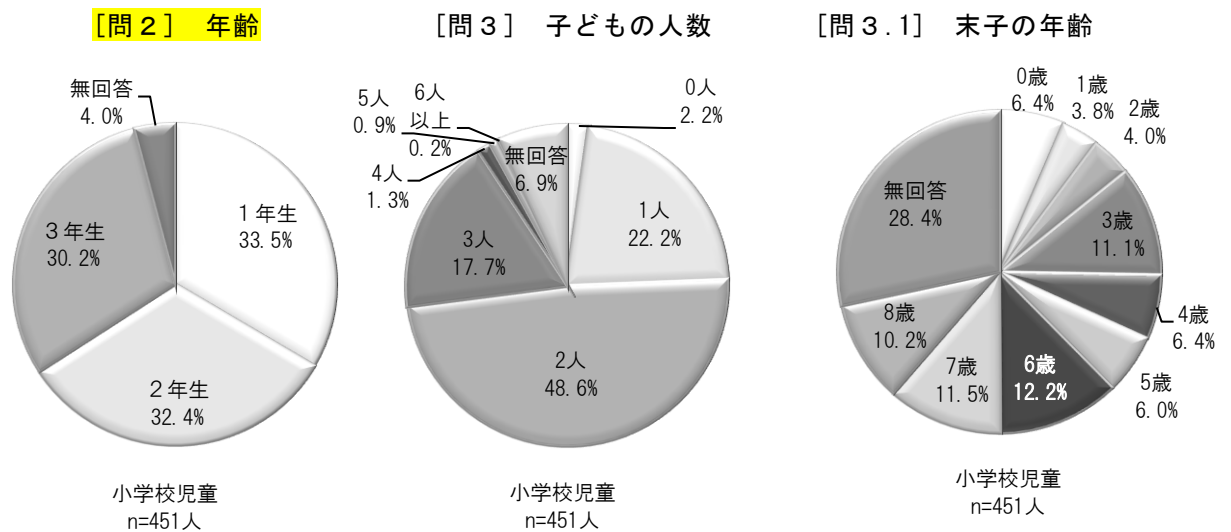


問3.1 未就学で一番上の子の年齢



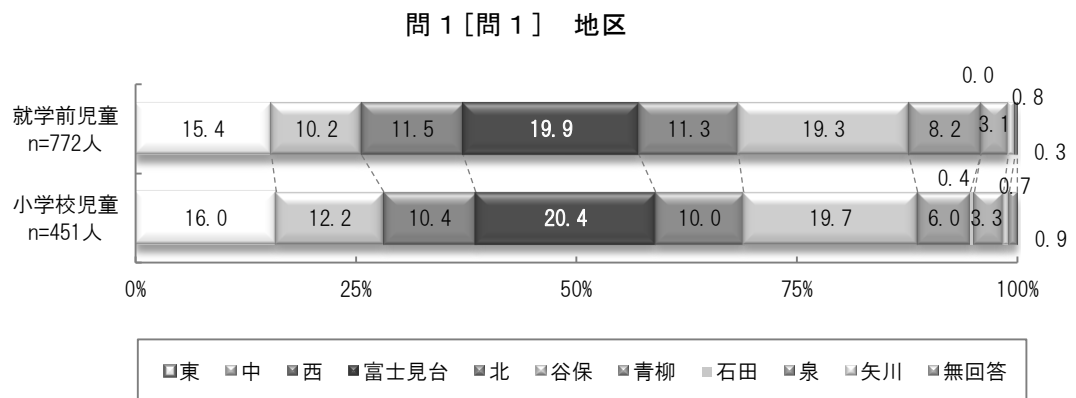
(2) 小学校児童の属性

回答された 451 件の小学校児童の属性は、以下のとおり。



(3) 居住地区の状況

回答者が居住している地区は、「富士見台」が最も高く、次いで「谷保」、「東」の順となっている。



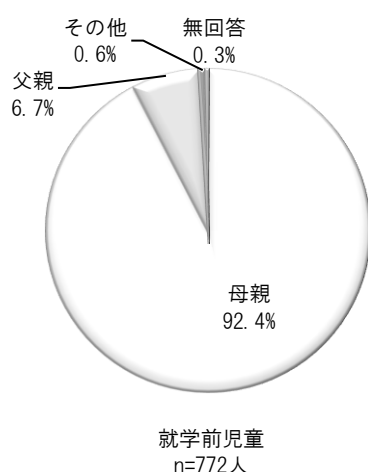
(4) 調査回答者の状況

就学前児童、小学校児童ともに、調査回答者は母親が約9割、配偶者関係は9割以上が「配偶者がいる」と回答している。また、主な子育て者は6割弱で「父母ともに」、約4割が「主に母親」と回答している。

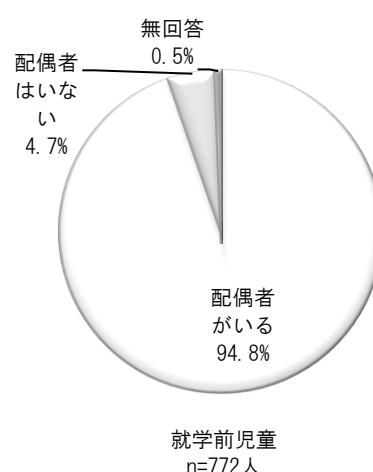
父母や祖父母の同居等については、「父母同居」が85.9%で最も高く、次いで「祖父母近居」が28.1%となっている。

居住状況は、「持ち家（一戸建て）」が40.5%、「賃貸マンション・アパート・借家」が34.2%、「分譲マンション」が18.0%となっており、居住年数は「5～9年」が31.9%、「3年～4年」が20.3%、「1～2年」が15.8%となっている。

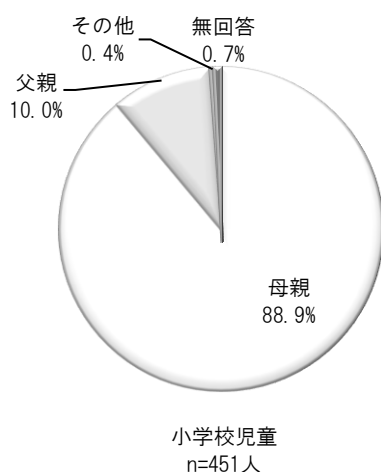
問4 調査回答者（就学前児童）



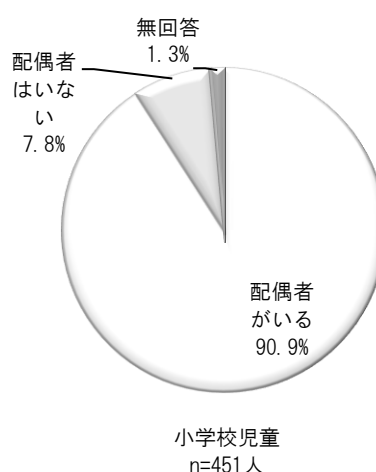
問5 配偶者関係（就学前児童）



[問4] 調査回答者（小学校児童）

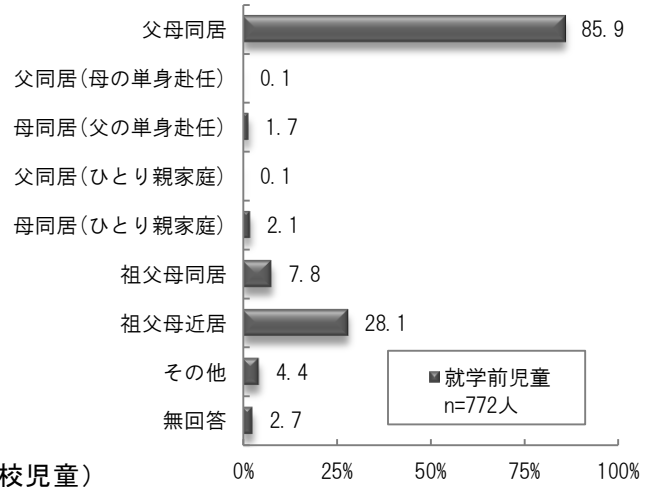
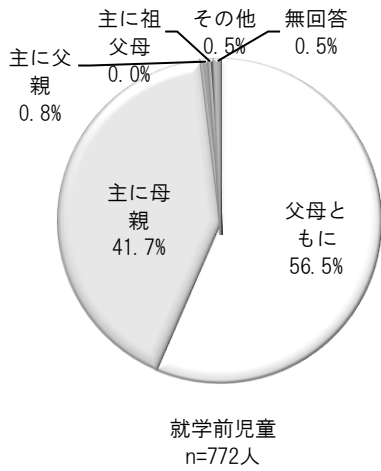


[問5] 配偶者関係（小学校児童）

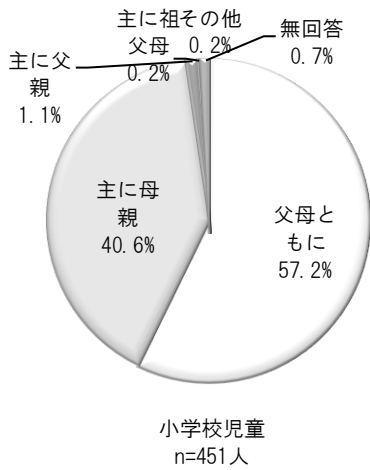


問 6 子育てを主に行っている者（就学前児童）

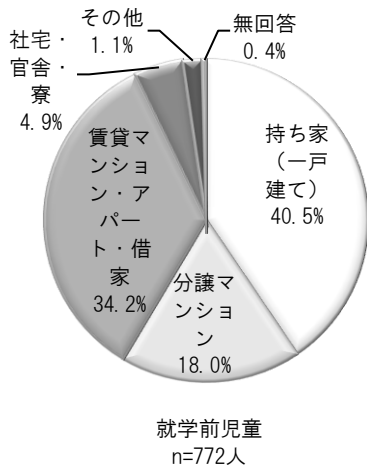
問 6-1 同居・近居親族（就学前児童）



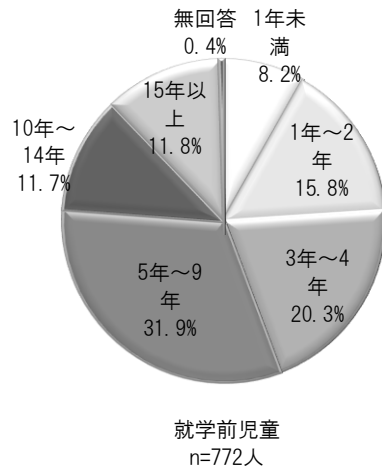
[問 6] 子育てを主に行っている者（小学校児童）



問 6-2 居住状況（就学前児童）



問 6-3 居住年数（就学前児童）



Ⅱ 調査結果

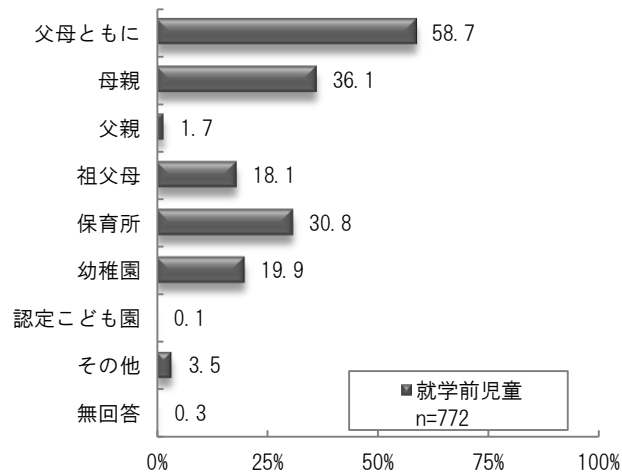
1 子育ての環境について

子育てに影響を与えると思う環境は「家庭」が93.5%と最も高い。

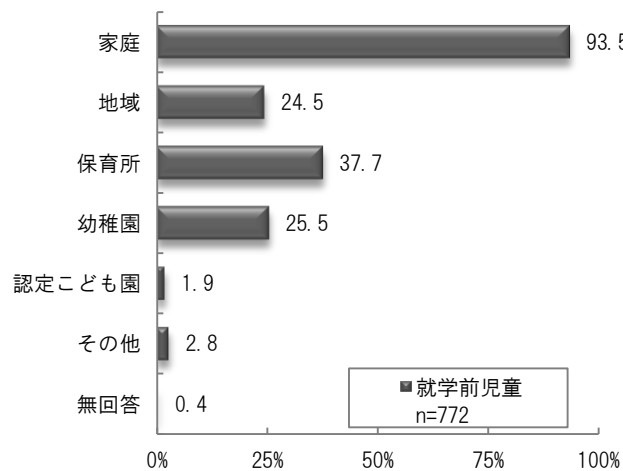
子どもをみてもらえる親族・知人については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」割合が53.6%で、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」割合は22.4%となっている。

気軽に相談できる人が「いる」割合は90.8%で、相談相手は「祖父母等の親族」と「友人・知人」がそれぞれ70%以上となっている。

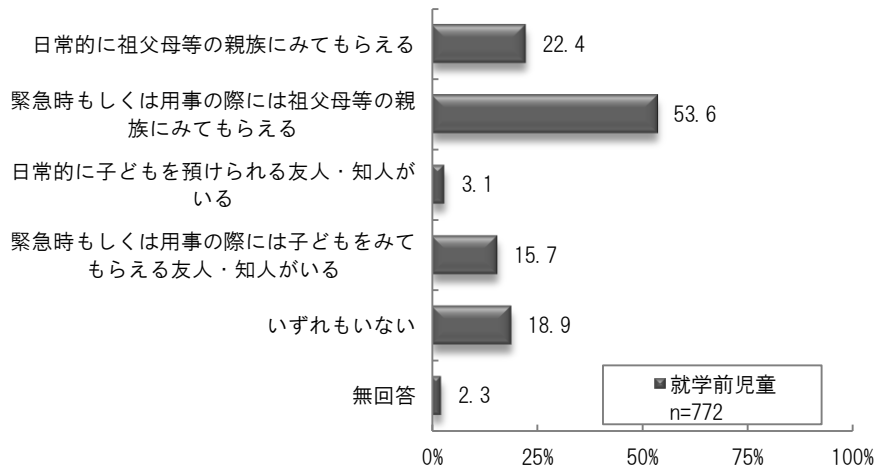
問7 子育てに日常的に関わっている人



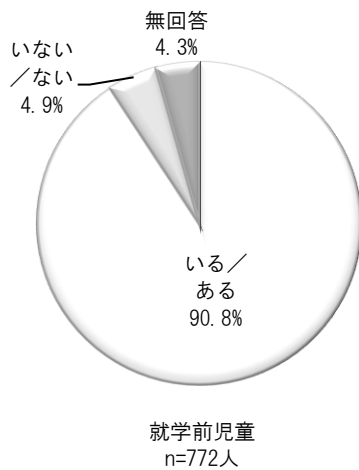
問8 子育てにもっとも影響を与えると思う環境



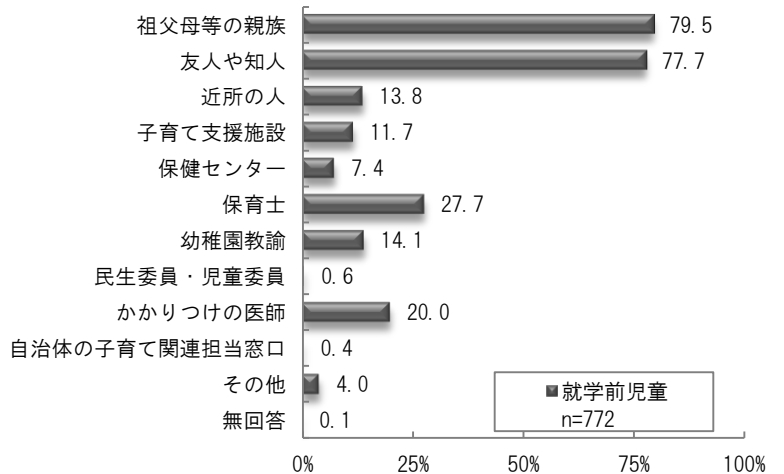
問 9 子どもをみてもらえる親族・知人



問 10 気軽に相談できる人・場所



問 10-1 相談先

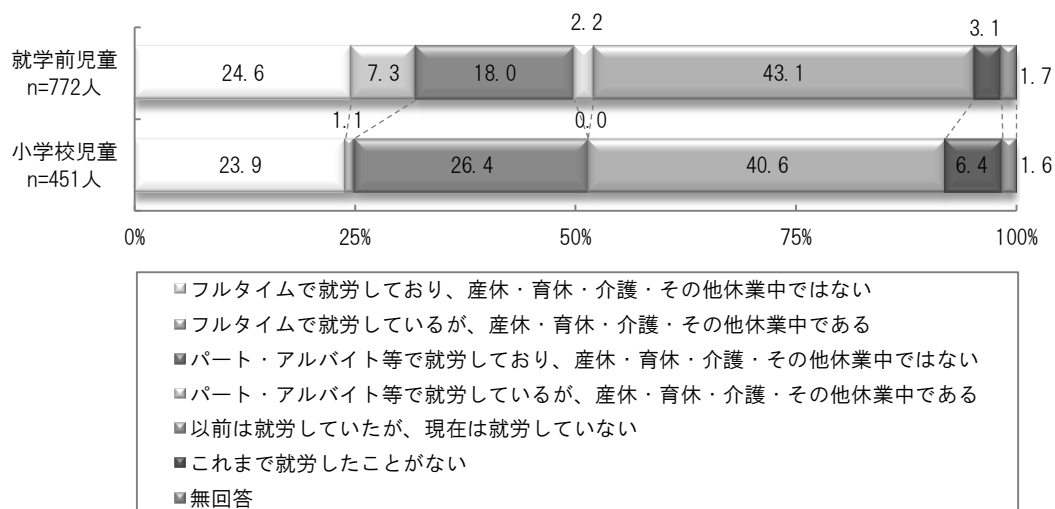


2 保護者の就労状況

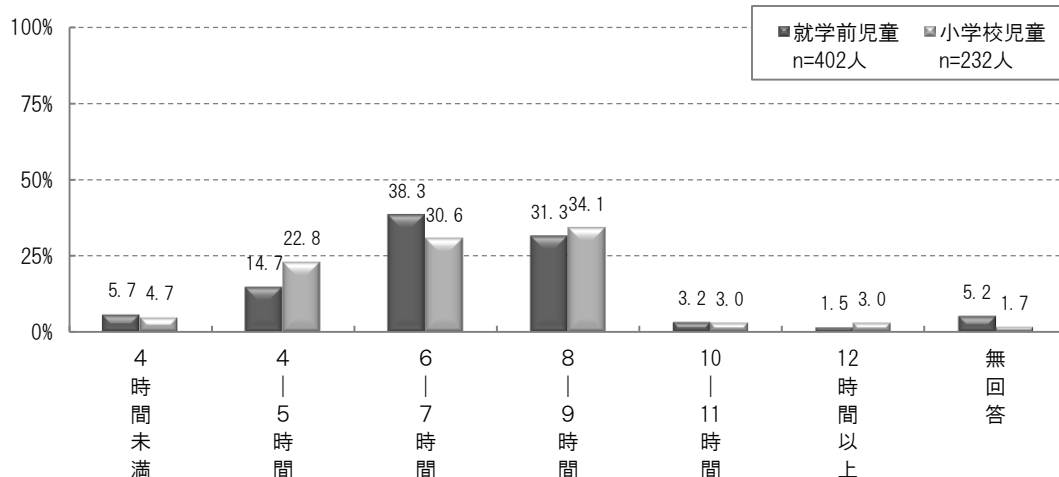
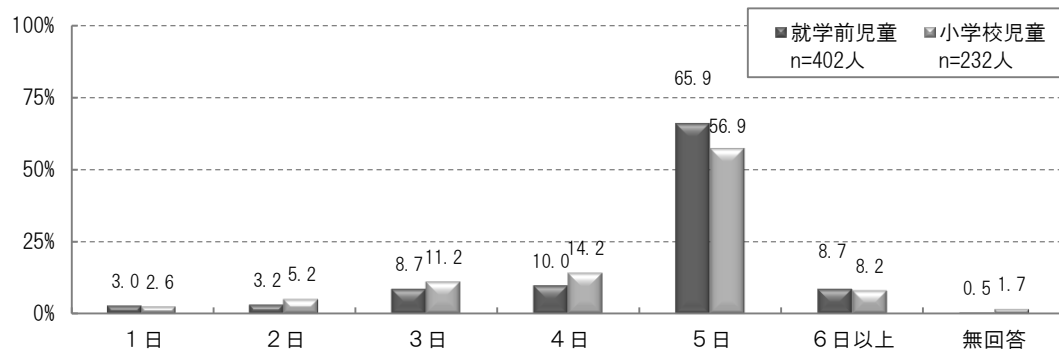
(1) 母親の就労状況

「以前は就労していたが、現在は就労していない」が約4割、次いで就学前児童は「フルタイム就労しており休業中ではない」が24.6%、小学校児童は「パート・アルバイト等で就労しており休業中ではない」が26.4%と高くなっている。

問 12(1) [問 7(1)] 母親の就労状況



問 12(1)-1 [問 7(1)-1] 母親の就労日数・就労時間

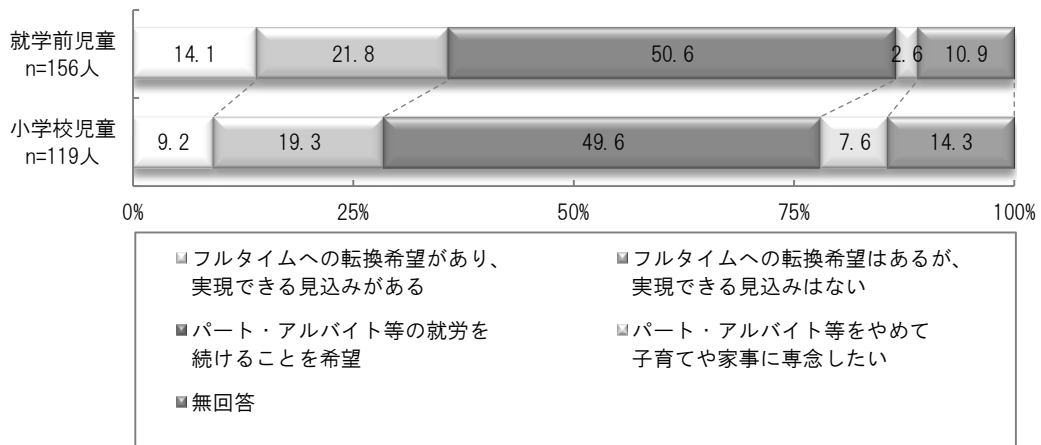




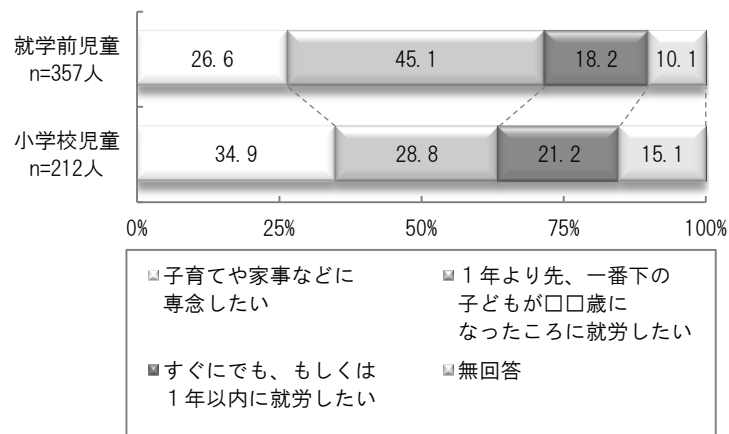
パートタイムからフルタイムへの意向は、就学前・小学校児童ともに「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が約5割と最も高く、次いで約2割が「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」と回答している。

就労していない母親の今後の就労希望は、就学前児童の45.1%が今後の就労を希望しているが、小学校児童は「子育てや家事などに専念したい」が最も高くなっている。希望する就労形態は、「パートタイム、アルバイト等」が約5割となっている。

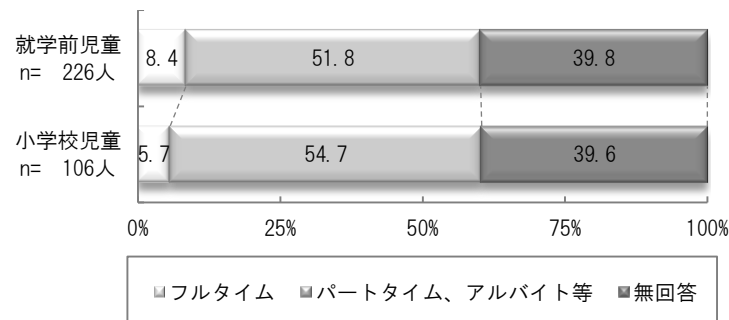
問 13(1) [問 8(1)] 母親のパートタイムからフルタイム勤務への意向



問 14(1) [問 9(1)] 就労していない母親の今後の就労希望と就労希望時の末子の年齢



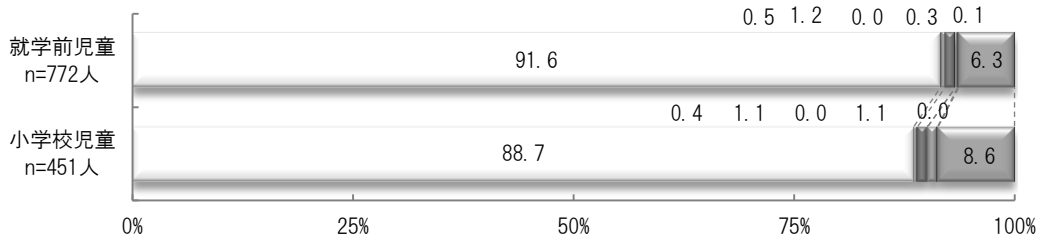
母親の希望する就労形態



(2) 父親の就労状況

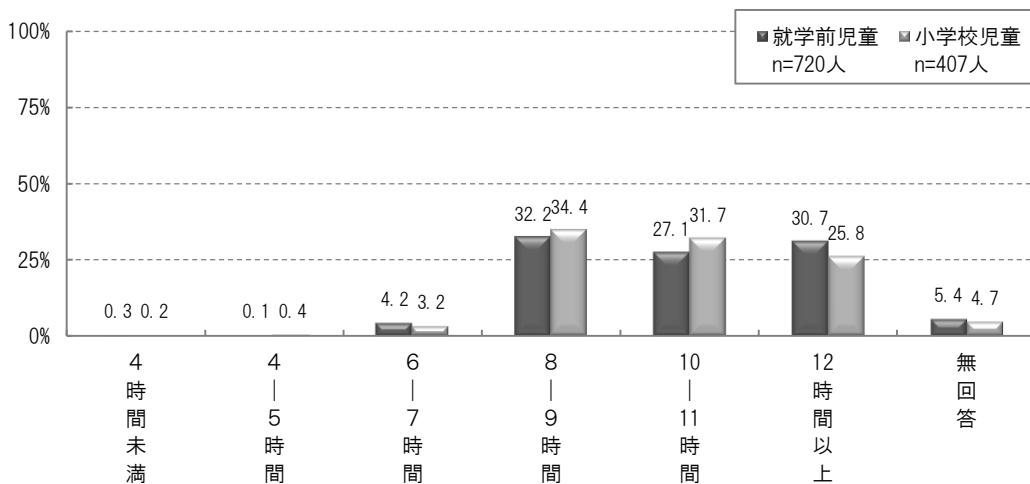
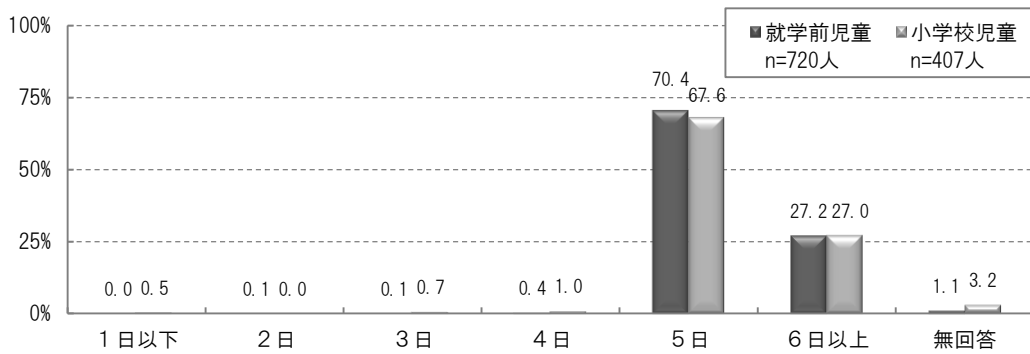
父親の約9割が、「フルタイム勤務で休業中ではない」と回答している。

問 12(2) [問 7(2)] 父親の就労状況



- フルタイムで就労しており、育休・介護・その他休業中ではない
- フルタイムで就労しているが、育休・介護・その他休業中である
- パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護・その他休業中ではない
- パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護・その他休業中である
- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- 無回答

問 12(2)-1 [問 7(2)-1] 父親の就労日数・就労時間

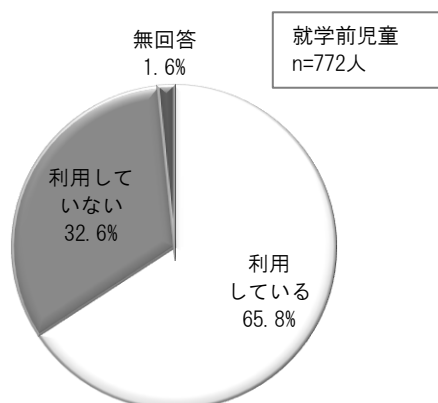


3 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

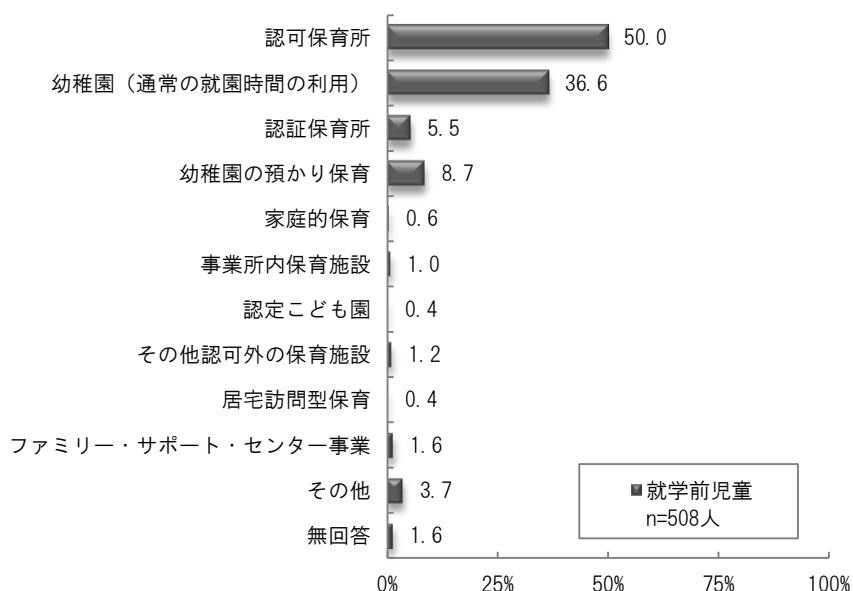
平日の定期的な教育・保育事業を「利用している」のは 65.8%で、そのうち、「認可保育所」が 50.0%、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が 36.6%となっている。

現在の利用日数と希望日数も、週5日が最も高くなっている。利用時間は5時間が最も高くなっているが、希望時間では6～11時間で10%程度と回答がわかれている。

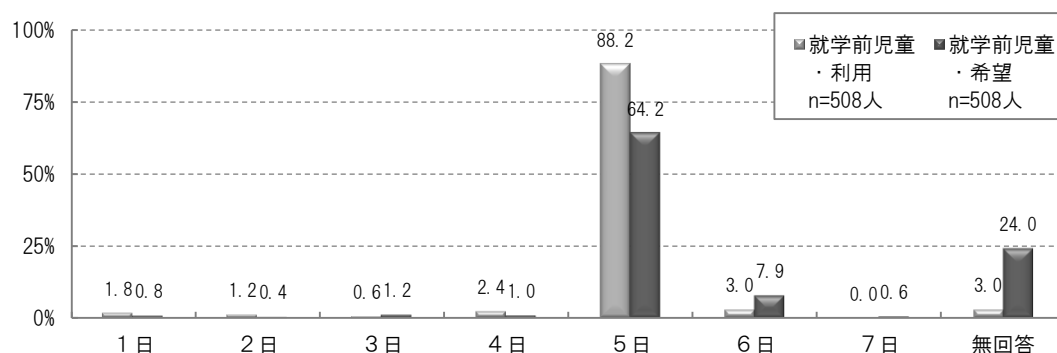
問 15 幼稚園・保育施設等の利用状況



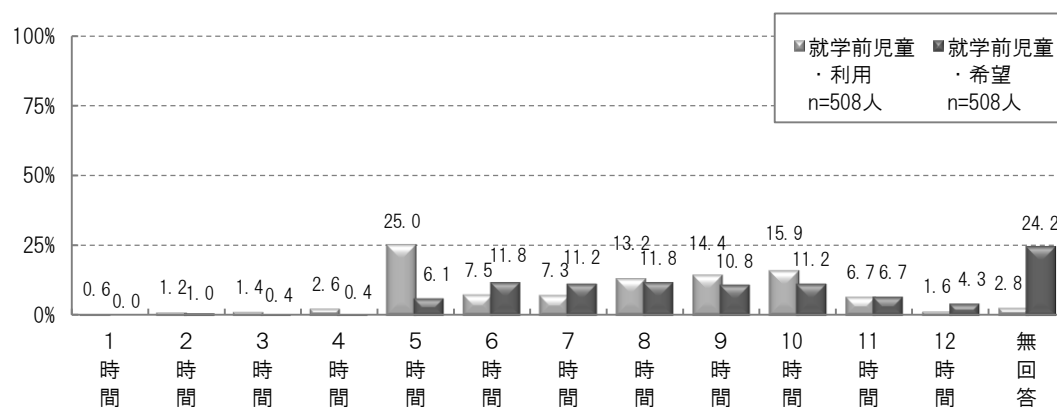
問 15-1 定期的にご利用している幼稚園・保育施設等



問 15-2(1) 定期的に利用している幼稚園・保育施設等の利用日数と希望日数（1週間あたり）



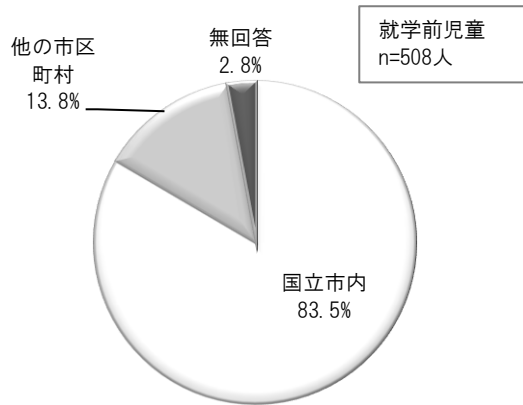
問 15-2(2) 日常的に利用している幼稚園・保育施設等の利用時間と希望時間（1日あたり）



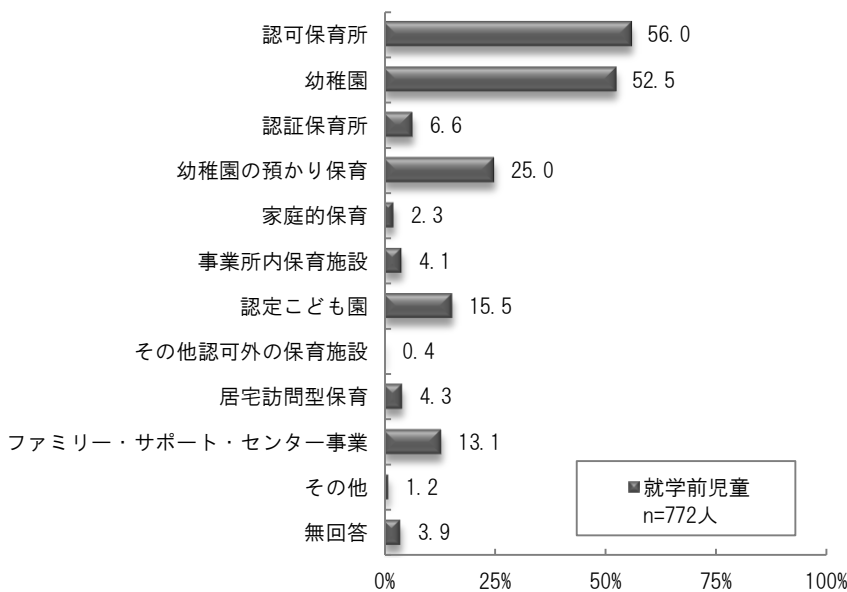


日常的に利用している施設は「国立市内」が 83.5%、利用希望も「国立市内」が 87.3%となっている。また、利用したい施設等は、「認可保育所」「幼稚園」で 50%を超えている。

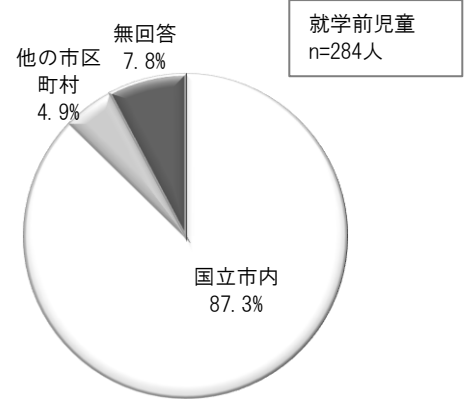
問 15-3 日常的に利用している施設等の場所



問 16 平日利用したいと考える幼稚園・保育施設等



問 16-1 利用したい場所

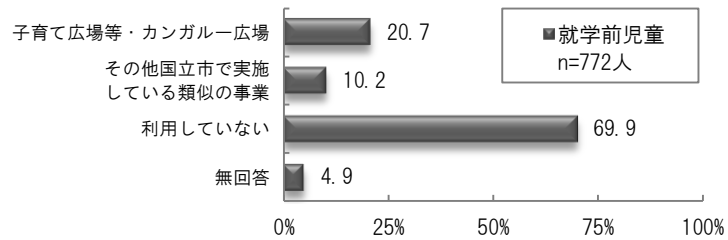


4 地域の子育て支援事業の現状と今後の利用意向

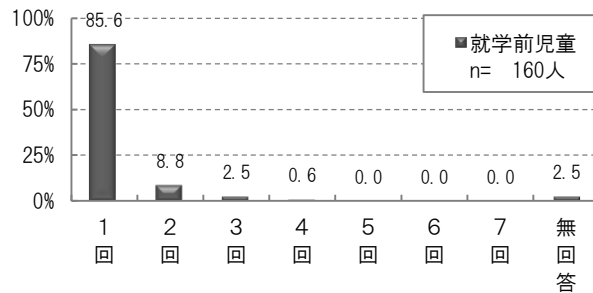
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用について

地域子育て支援事業は、「利用していない」が69.9%と最も高く、「子育て広場等・カンガルー広場」の利用は20.7%となっている。今後の利用については、「利用していないが利用したい」が24.9%となっている。

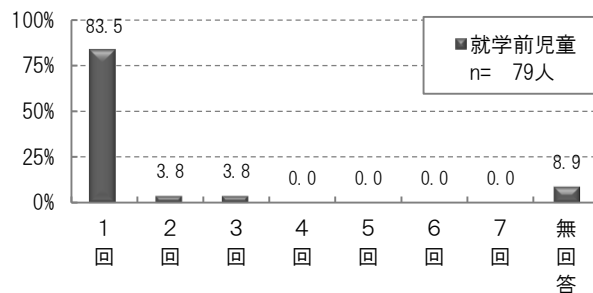
問 17.1 地域子育て支援拠点事業の利用状況



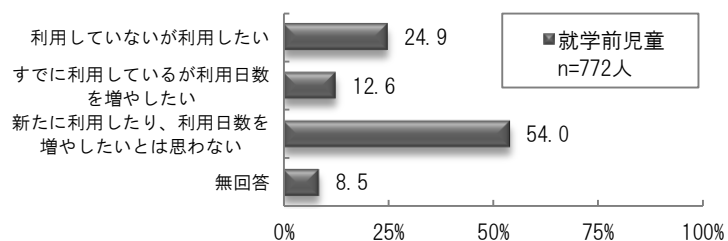
問 17.1.1 子育て広場等・カンガルー広場の利用回数（1週当たり）



問 17.1.2 その他類似事業の利用回数（1ヶ月当たり）



問 18 地域子育て支援拠点事業の利用状況

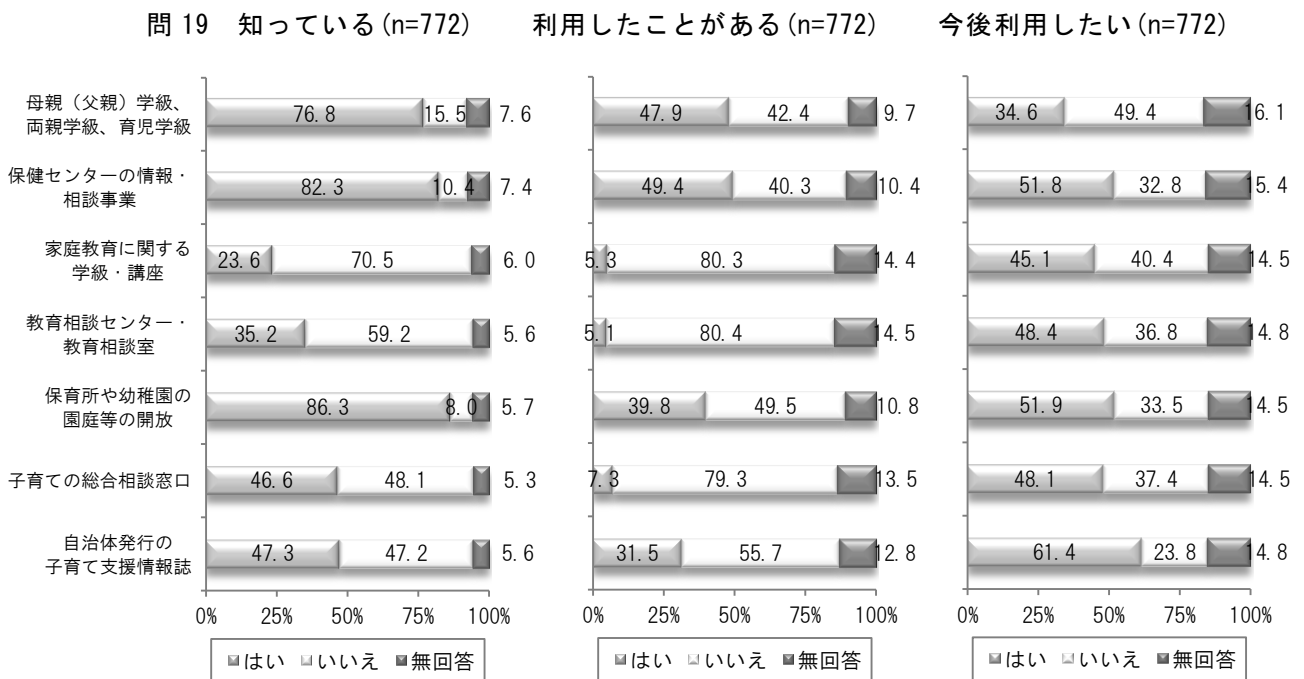


(2) 地域子育て支援事業の周知・利用状況と今後の利用意向について

地域子育て支援事業の認知度は、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」「保健センターの情報・相談事業」「母親（父親）学級、両親学級、育児学級」が75%以上となっている。

利用したことがある事業は、上記の3事業と「自治体発行の子育て支援情報誌」で30%以上となっている。

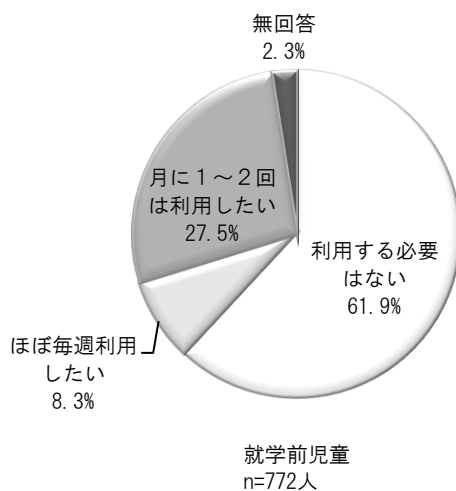
今後の利用希望については、どの事業も30%を超しているが、「自治体発行の子育て支援情報誌」「保育所や幼稚園の園庭等の開放」「保健センターの情報・相談事業」で50%以上となっている。



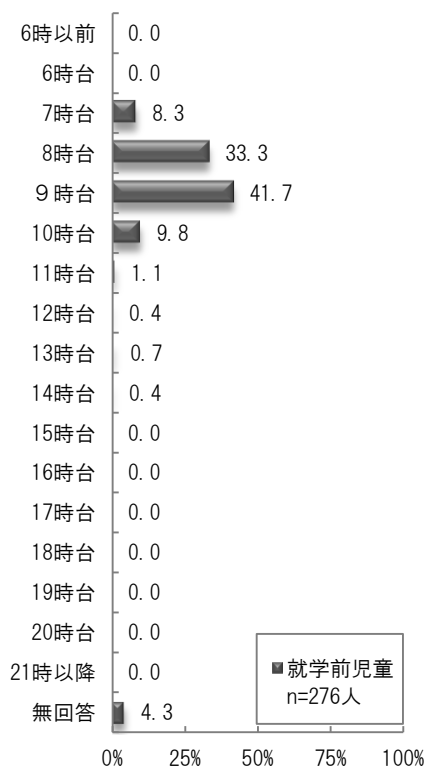
5 土曜・休日の教育・保育事業の利用意向

土曜日の利用希望は、「利用する必要はない」が61.9%と最も高く、「月に1～2回は利用したい」が27.5%となっている。日曜・祝日では「利用する必要はない」が78.2%、「月に1～2回は利用したい」が16.7%となっている。

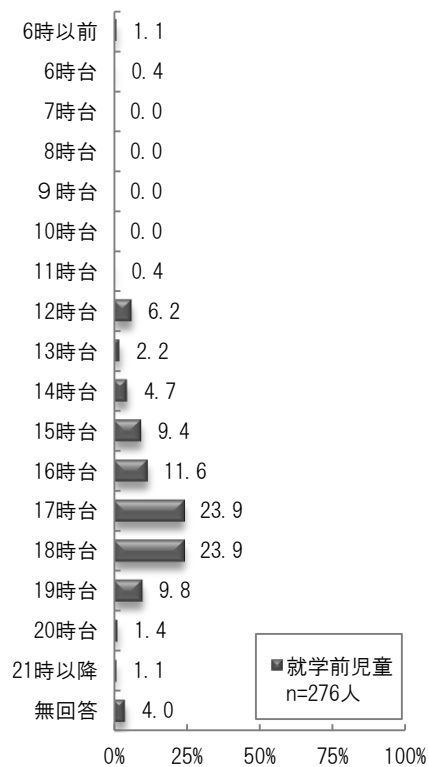
問 20 土曜日の利用希望



問 20.1 土曜日の利用希望開始時間

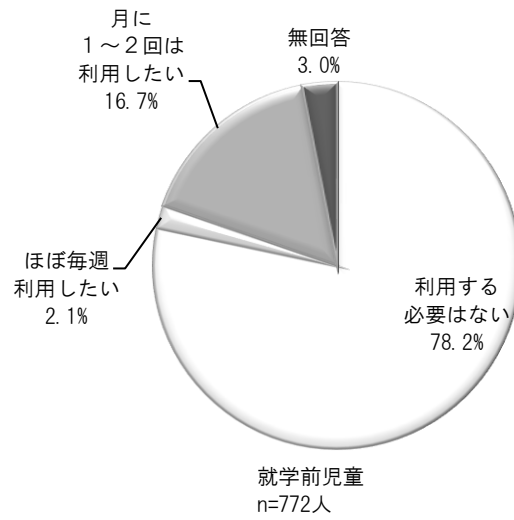


問 20.2 土曜日の利用希望終了時間



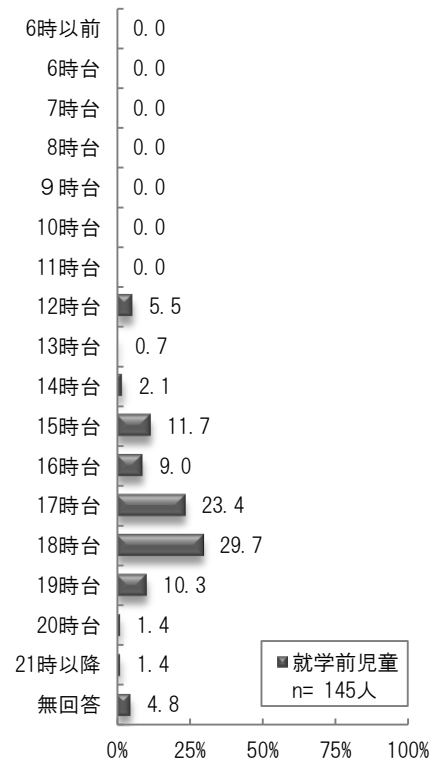
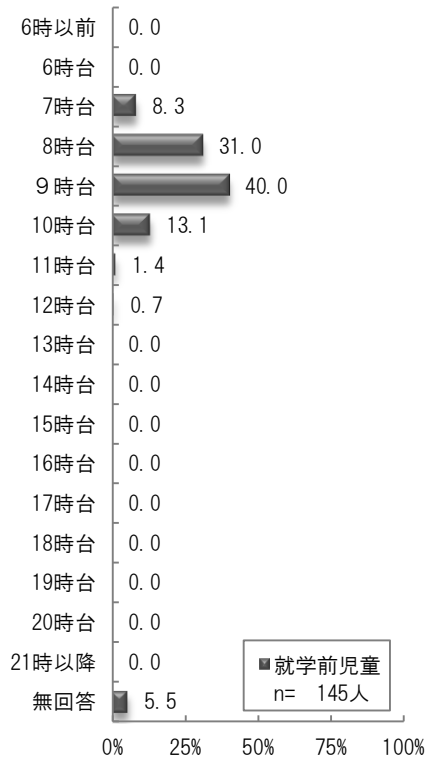


問 20(2) 日曜・祝日の利用希望



問 20(2).1 日曜・祝日の利用希望開始時間

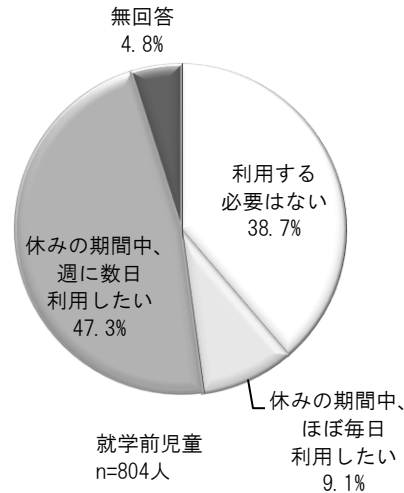
問 20(2).2 日曜・祝日の利用希望終了時間



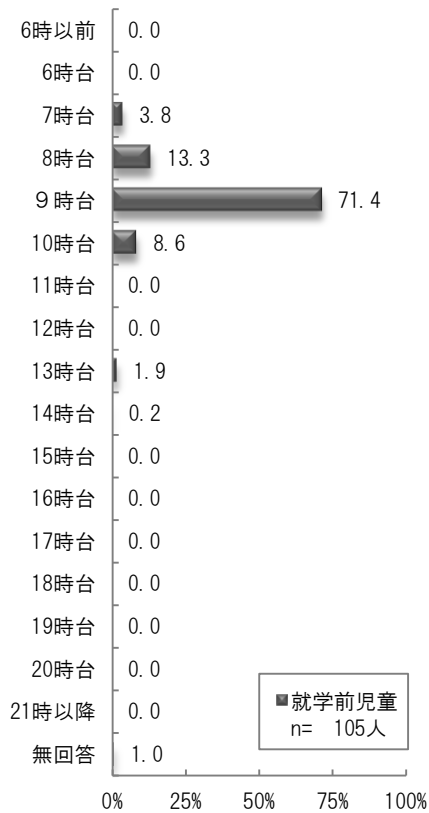


夏休み・冬休みなどの長期の休暇中の利用希望は、「休みの期間中、週に数日利用したい」が47.3%と最も高く、次いで「利用する必要はない」が38.7%となっている。

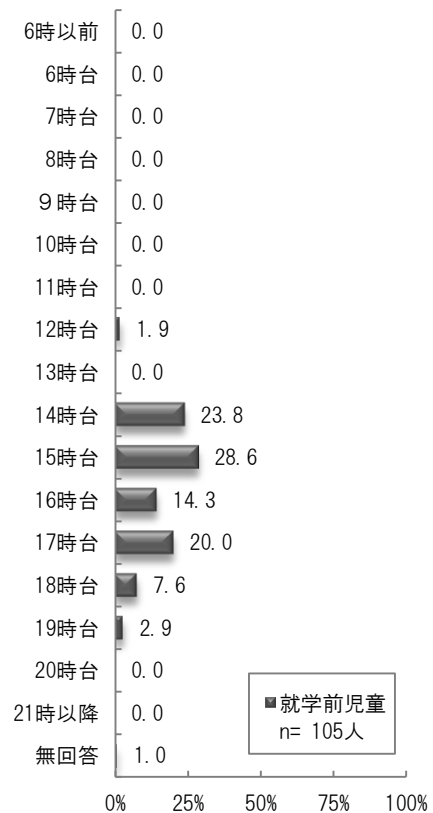
問 21 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望（幼稚園利用者）



問 21-1 長期休暇中の希望開始時間



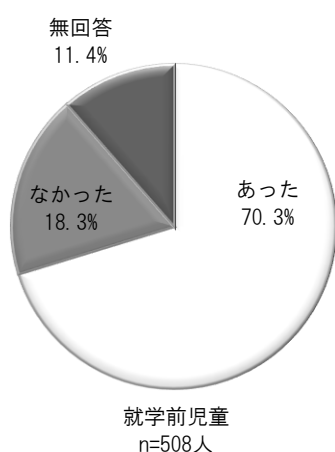
問 21-2 長期休暇中の希望終了時間



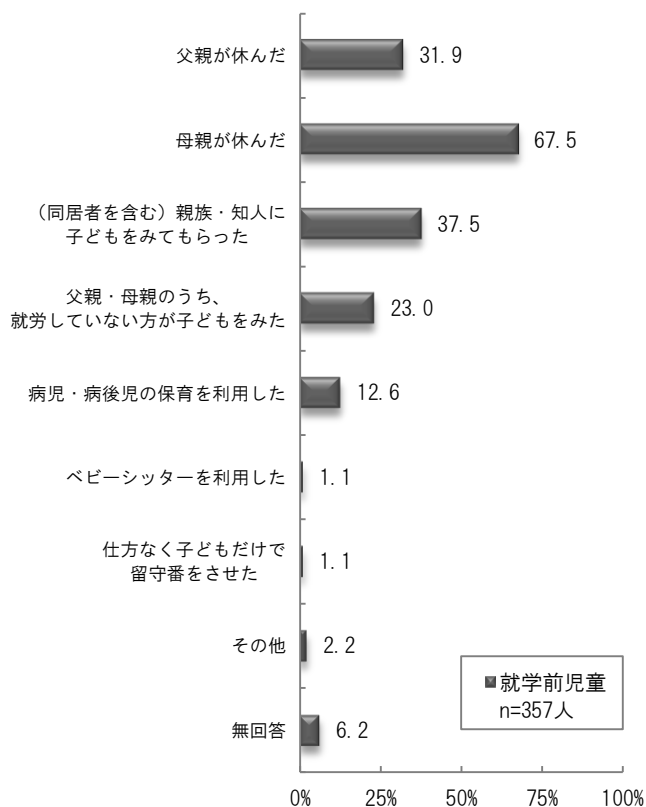
6 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

病気やケガで、通常の教育・保育事業が利用できなかった経験があったのは70.3%で、その対処法は「母親が休んだ」が67.5%と最も高く、次いで「親族・知人に子どもをみてもらった」が37.5%、「父親が休んだ」が31.9%となっている。

問 22 病気やケガで、通常の事業が利用できなかったことの有無



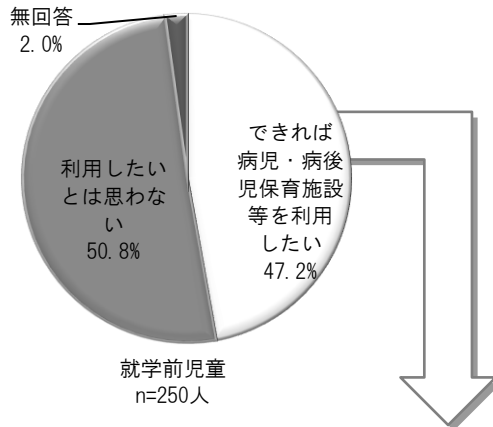
問 22-1 この1年間の対処方法



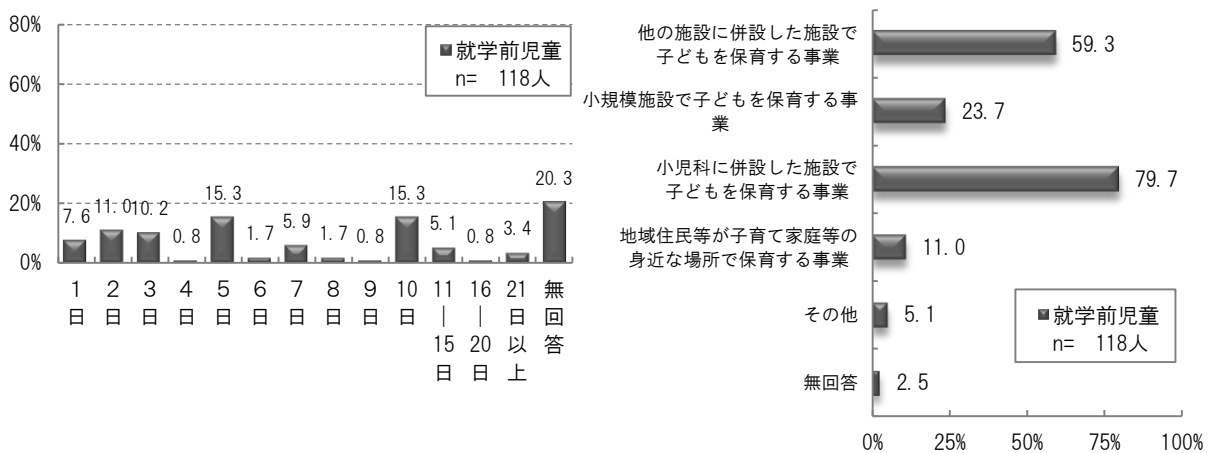
父親・母親が休んだ人で、47.2%が「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」、50.8%が「利用したいとは思わない」と回答している。

利用したい人が思う望ましい事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保護する事業」が79.7%と最も高く、次いで「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」が59.3%となっている。

問 22-2 父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設利用意向



問 22-3 子どもを預ける場合の望ましい希望日数（年間）と事業形態

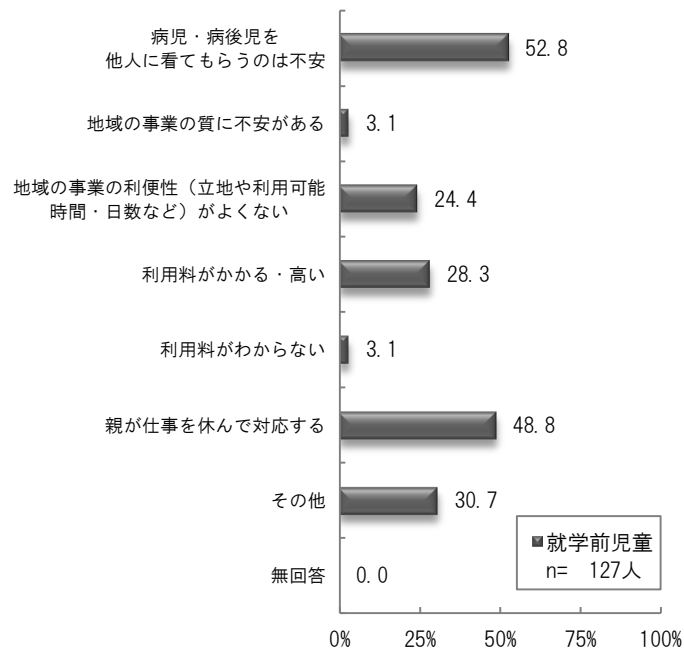




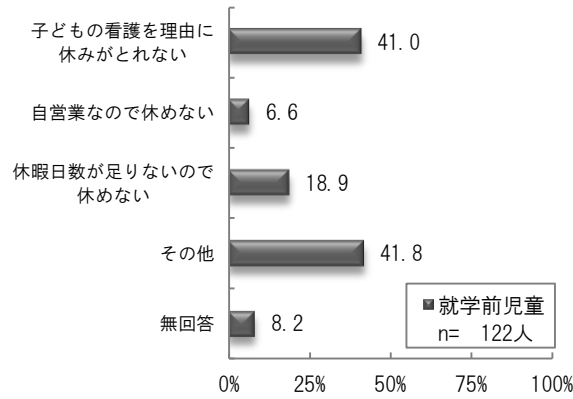
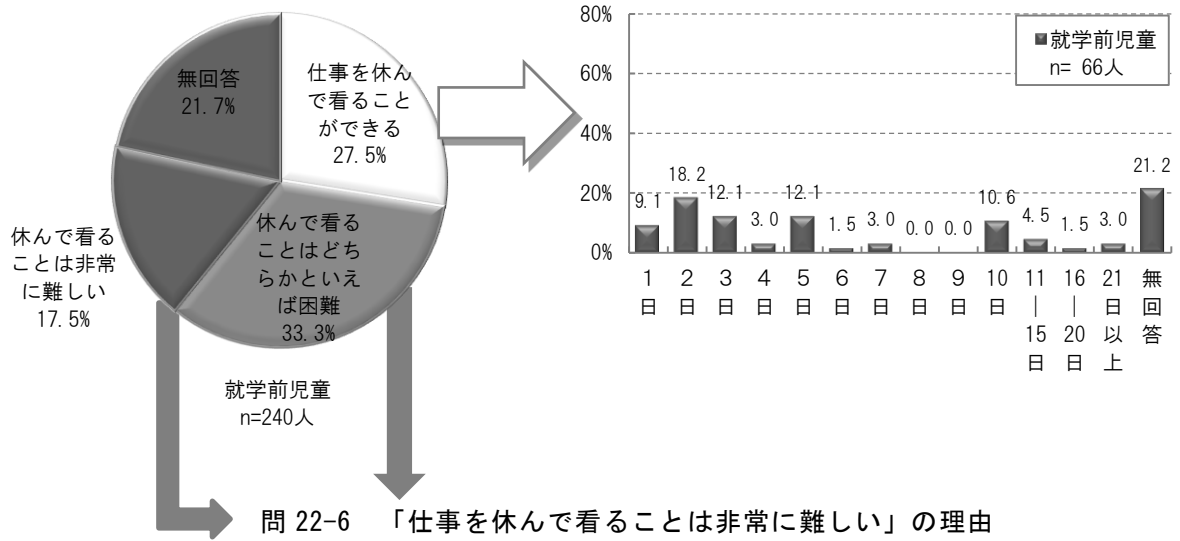
病児・病後児のための保育施設利用意向がない理由は、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が 52.8%、次いで「親が仕事を休んで対応する」が 48.8%、「その他」が 30.7%となっている。

父母が休む以外の対処方法を選んだ方で、「父母が休んで看たい」意向は、「仕事を休んで看ることはどちらかといえば困難」「非常に難しい」を合わせると、50.8%となっている。その理由としては、「その他」が 41.8%、「子どもの看護を理由に休みがとれない」が 41.0%となっている。

問 22-4 病児・病後児のための保育施設利用意向のない方の理由



問 22-5 父母が休む以外の対処方法を選んだ方の「父母が休んで看たい」意向と希望日数



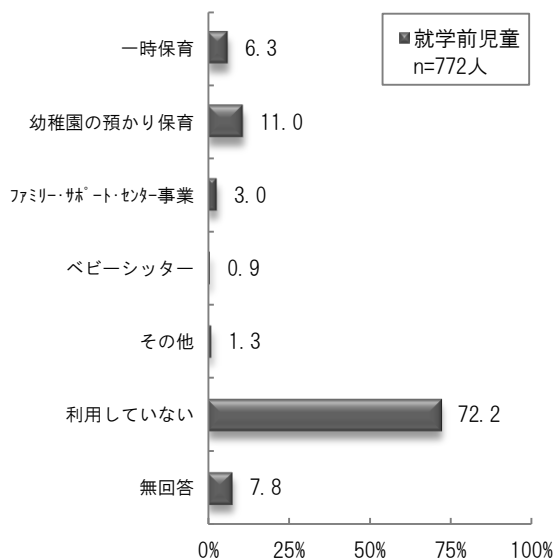
<「その他」の主な理由>

- 職場の環境・雰囲気（仕事が忙しい、理解がない、周囲や自分に負担がかかる、等）
- その他（収入減となる、他の家族を看護している、休みを何度も取ることを法で認めても場として認めていない、等）

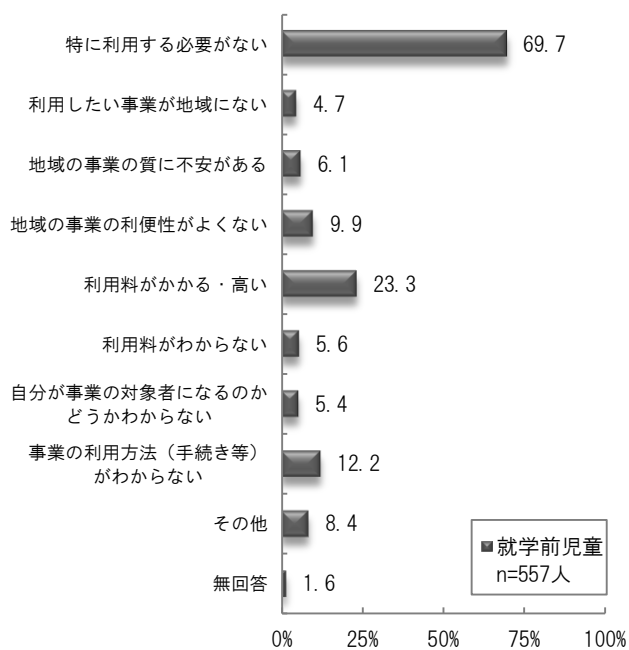
7 不定期の一時保育の利用について

不定期の教育・保育事業の利用は、「利用していない」が72.2%と最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」が11.0%、「一時保育」が6.3%となっている。利用していない理由は、「特に利用する必要がない」が69.7%、「利用料がかかる・高い」が23.3%となっている。

問 23 一時保育事業の利用状況

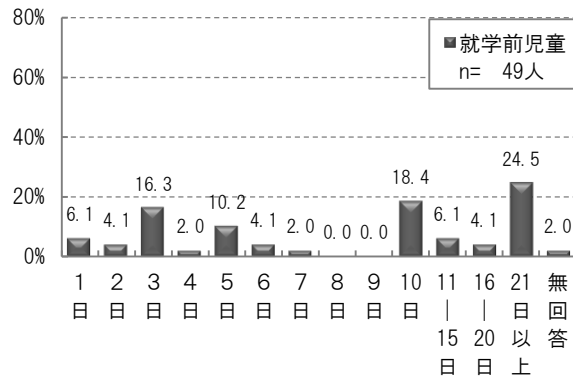


問 23-1 一時保育を利用していない理由

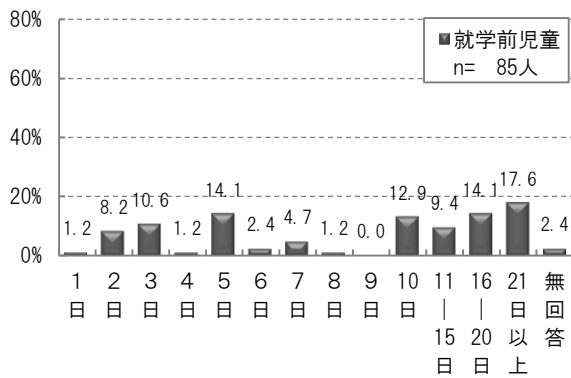




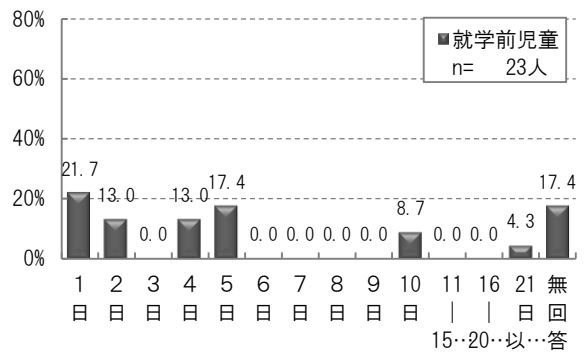
問 23.1 一時保育に預けた日数（年間）



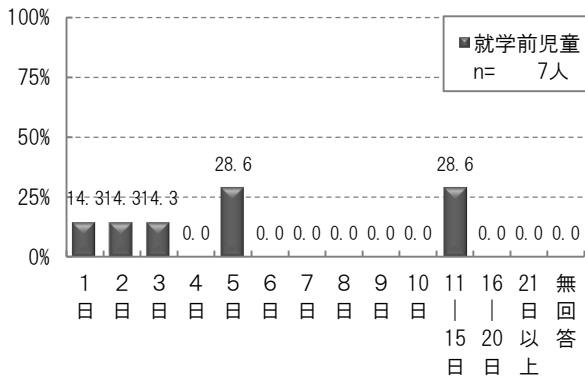
問 23.2 幼稚園の預かり保育（年間）



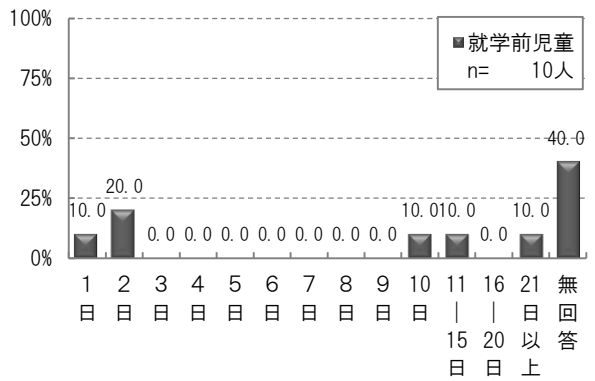
問 23.3 ファミリー・ホーム・センター（年間）



問 23.4 ベビーシッター（年間）



問 23.5 その他（年間）

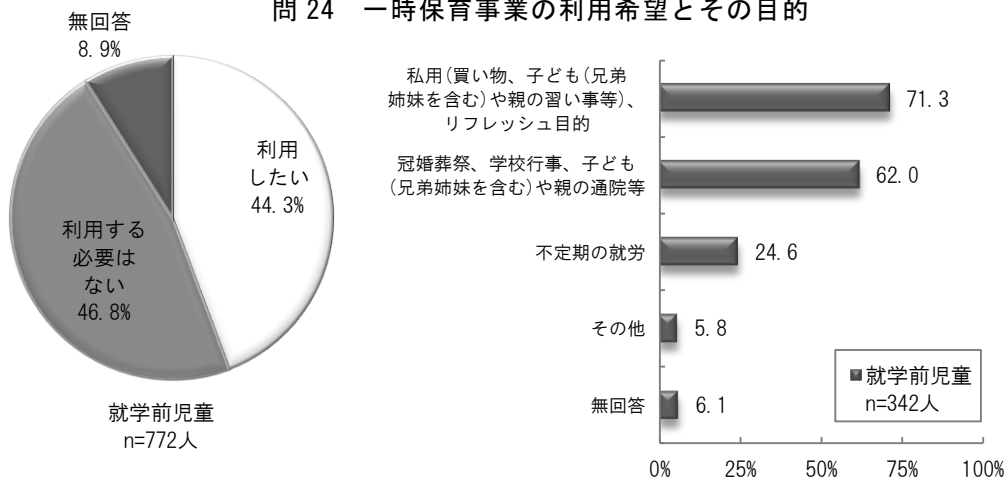




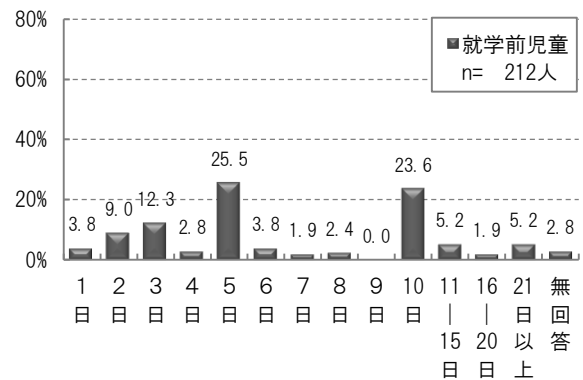
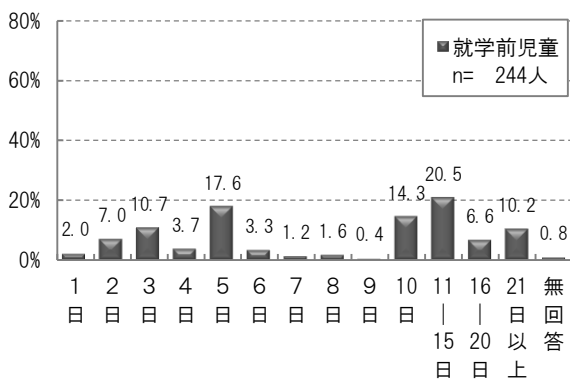
私用、親の通院、不定期の就労等の目的で利用する必要があるかについては、「利用したい」が 44.3%で、その目的は「私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が 71.3%、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が 62.0%となっている。

また、その際の望ましい事業形態は、「大規模施設で子どもを預かる事業」が 76.3%、「小規模施設で子どもを預かる事業」が 51.8%となっている。

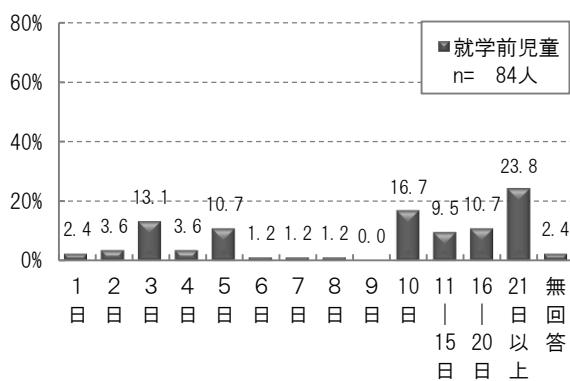
問 24 一時保育事業の利用希望とその目的



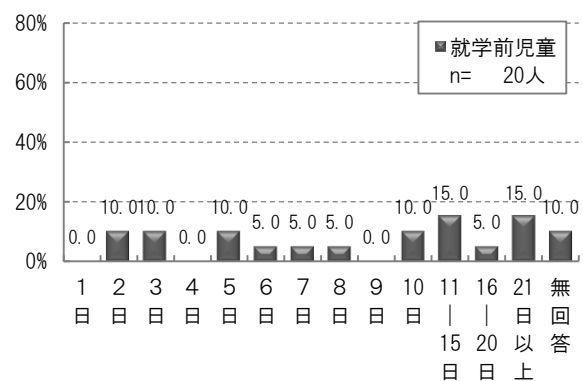
問 24.1. ① 私用、リフレッシュ目的 問 24.1. ② 冠婚葬祭、学校行事、家族の通院目的



問 24.1. ③ 不定期の就労目的

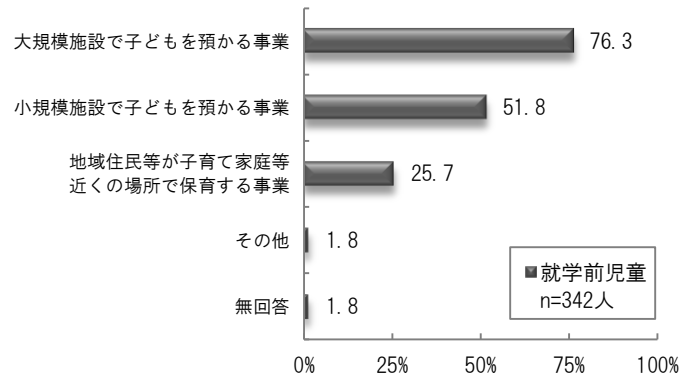


問 24.1. ④ その他の目的





問 24-1 子どもを預ける場合の望ましい事業形態



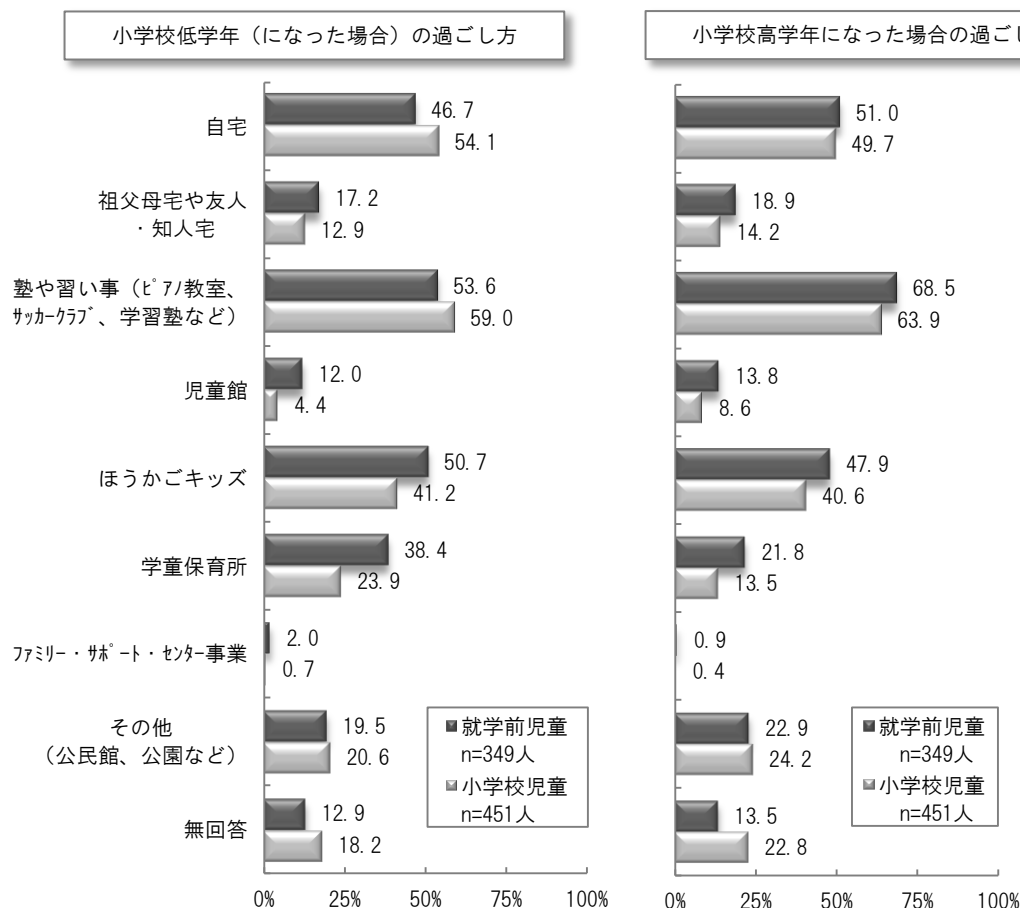
8 放課後の過ごし方について

(1) 平日の放課後の過ごし方について

平日の放課後の過ごし方について、就学前児童が小学校低学年になった場合の希望は、「塾や習いごと（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が53.6%、「ほうかごキッズ」が50.7%、「自宅」が46.7%、小学校児童の過ごし方は「塾や習いごと（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が59.0%、「自宅」が54.1%、「ほうかごキッズ」が41.2%となっている。

小学校高学年になった場合の過ごし方の希望は、就学前児童・小学校児童ともに「塾や習いごと（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が60%以上、「自宅」が約50%、「ほうかごキッズ」が40%以上となっている。

問 26・問 27[問 10・問 11] 放課後の過ごし方の希望



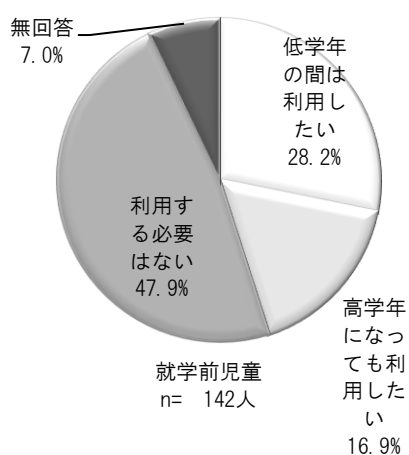
※「就学前児童」は3歳以上のみの回答

(2) 土曜・休日の学童保育所利用について

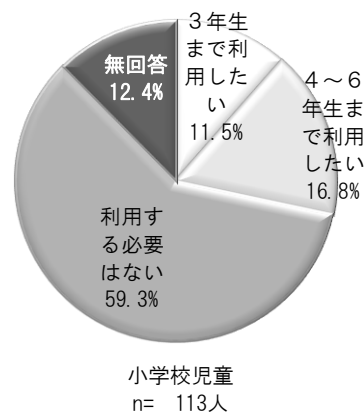
土曜、日曜・祝日の学童保育所の利用について、就学前児童・小学校児童ともに「利用する必要はない」が約50%以上と最も高くなっている。

就学前児童については、土曜日の利用は低学年の間が28.2%、日曜・祝日の利用は低学年の間が10.6%となっていて、小学校児童での土曜の利用は4～6年生までが16.8%、日曜・祝日の利用は4～6年生までが8.8%となっている。

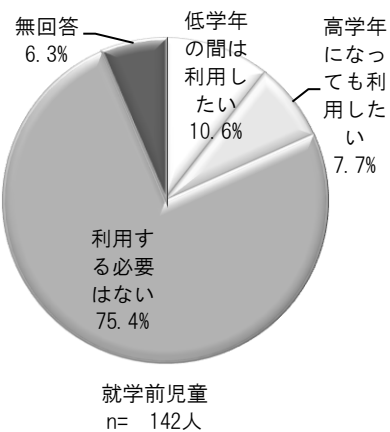
問 28(1) 土曜日の利用希望



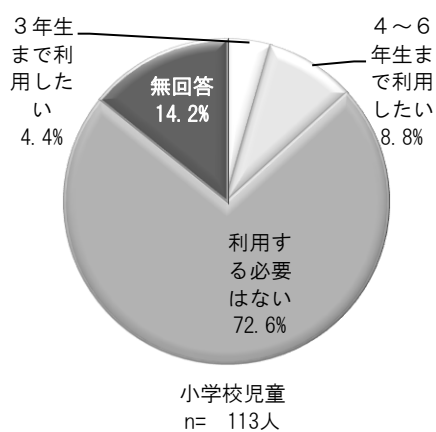
[問 12] (1) 土曜日の利用希望



問 28(2) 日曜・祝日の利用希望



[問 12] (2) 日曜・祝日の利用希望

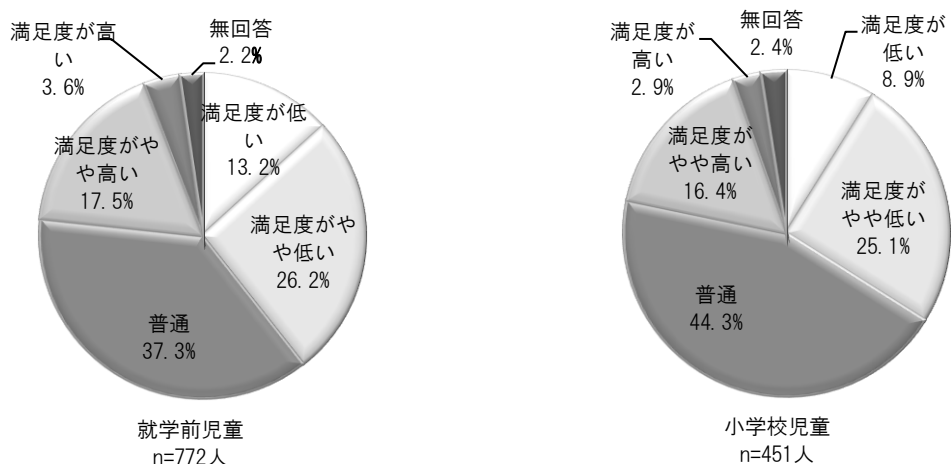


※「就学前児童」は3歳以上のみの回答

9 国立市の子育ての環境や支援への満足度

満足度は、就学前児童は「満足度が低い」「満足度がやや低い」の合算が39.4%と最も高く、次いで「普通」が37.3%、「満足度が高い」「満足度がやや高い」の合算が21.1%となっている。小学校児童では、「普通」が44.3%と最も高く、次いで「低い」「やや低い」の合算が34.0%、「高い」「やや高い」の合算が19.3%となっている。

問 31[問 14] 国立市の子育て支援の環境や支援への満足度の状況



子育てするうえで足りないと感じている点は、「子どもが思いきり体を動かして遊ぶ環境」が53.0%、次いで「子どもが安全に生活できる環境」が30.4%、「子どもの育ちを地域で支えていく取り組み」が28.9%となっている。

問 31-2 子育てするうえで足りていないと感じる点

